

巻 頭 言

会 長 室 井 綽



この度、皆さんのご推薦により会長という身にあまりご指示をいただき恐れ入っています。どうか生物学界の大先輩三浦会長はじめ、各会長によせられたご援助を引き続きお願いいたしたく存じます。

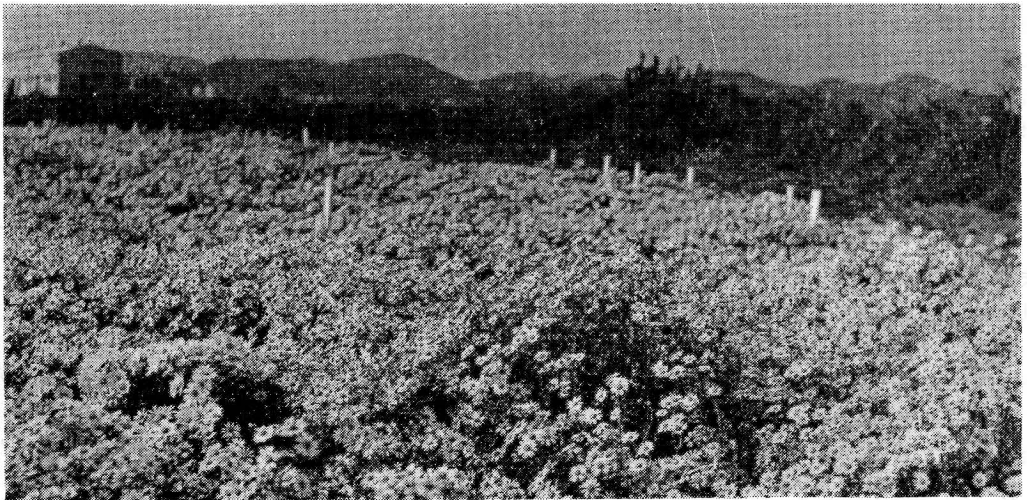
兵庫県生物学会機関誌「兵庫生物」も、第6巻5号を出版する運びとなりました。貴重な玉稿をお寄せ下さいました会員の皆さま、並びに本誌編集に多大のご苦心、ご努力をいただきました編集部の方に対し深甚の敬意と感謝を表します。

さて、わが生物学会は各会員の献身的な協力で偉大な業績を残し、いまは強固な活動的な組織となり、各方面にわたる多数の会員により活発な活動を続けた甲斐があって、中央においても評価の高い本誌となって参りました。今後もいっそう多くの人々の投稿をお願いいたしう存じます。

近年は自然保護ブームといえるほど毎日の新聞紙上で、その記事を見ない日はないほどです。それは人類全体の共同課題として真剣にとりあげて行かねばなりません。

われわれは、いま県民の健康と同時に県下の生物の保護のために生物の生育を正視してゆきたいものと考えます。その1つとして去る11月10日、姫路市日本触媒KKにおきまして「県花ノジギクを中心話題とした観察会」を行い、生態、観察を中心として討論会を開きましたところ、いまだかつてない180人という多勢が集っていただきました。

今後も自然保護、環境保全について好むと好まざるとにかかわらずやって行かなければならないと存じます。したがって、生物保護の考え方は幼少の頃から培かう必要があります。少年時代から身につけたことは忘れがたいものです。それ故、本年度から皆様のご協力によって、この方面の幅広い活動が必要であると思われまますので企画をたてたいと思います。こうしたことは生物学会にたずさわるわれわれとして重大な責務と思っております。どうか会員の皆様のご協力を紙上をかりましてお願いいたします。



日本触媒姫路工場内のノジギク保存園 (当津 隆氏撮影)